

喜界島ジオパーク(構想)における ジオパーク認定に向けた取組

鈴木倫太郎^{1,2} 上地義隆¹ 土屋純子¹

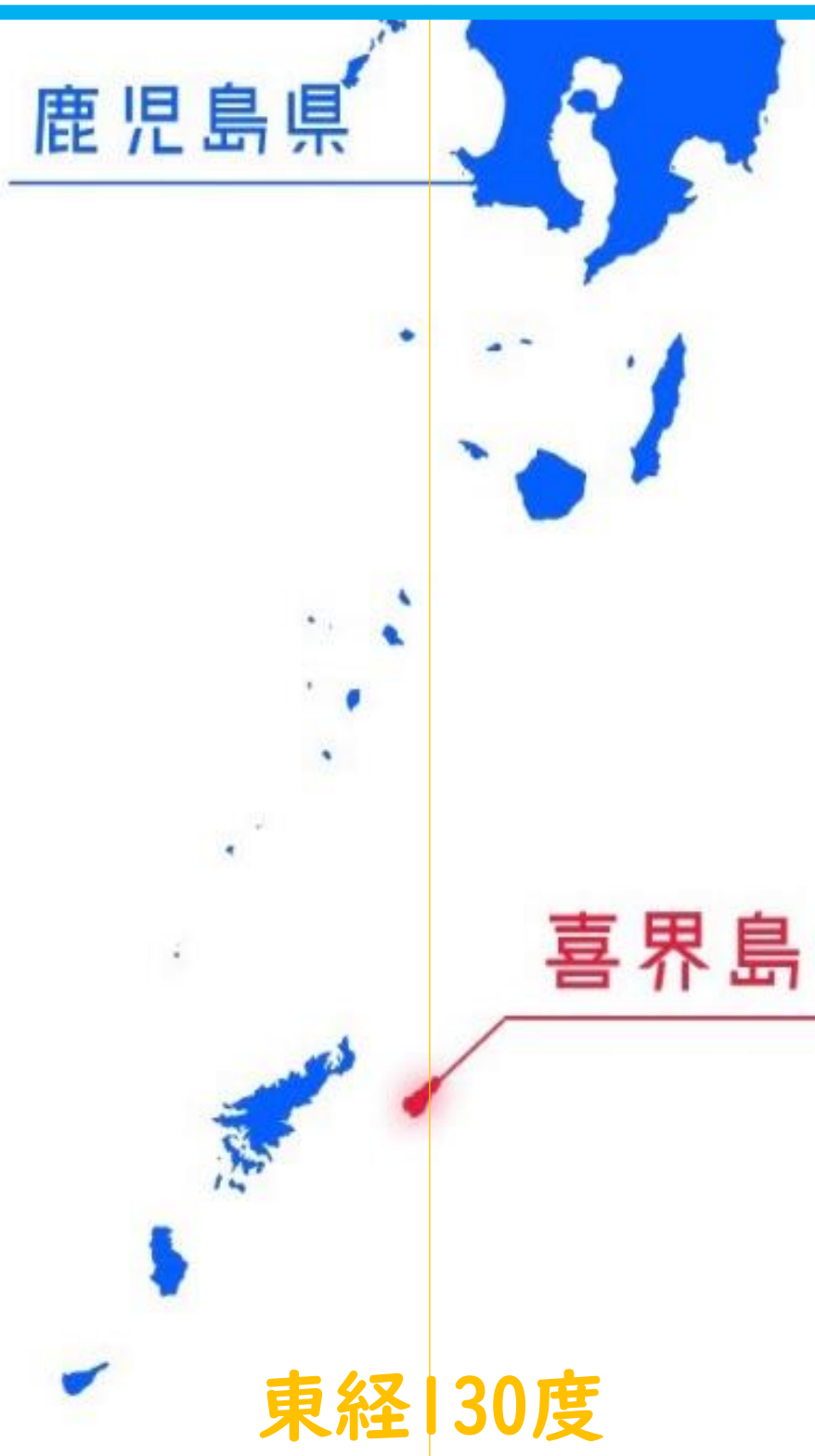
¹喜界島ジオパーク推進協議会 ²喜界島サンゴ礁科学研究所



喜界島ジオパーク(構想)

はじめに

喜界島は10万年で200mも隆起した隆起速度がとても速い島で、立派な隆起サンゴ礁段丘を見ることができます。現在、喜界島ではこの世界的にも珍しい島の地形地質資源、その上に成り立つ独自の自然、文化を活用して、喜界町の課題解決や目標達成を目的として日本ジオパーク認定に向けた活動と、島の方々にジオパークを理解してもらうための様々な取組を進めています。



「月刊喜界島ジオパーク」連載

喜界町が毎月発行している「広報きかい」において、島民の方々に広くジオパークの理解と認知向上を推進するため「月刊喜界島ジオパーク」の連載を2023年11月号より開始しました。連載では、ジオパーク学習や公民館講座の様子など、喜界島ジオパーク(構想)の活動や取り組みのほか、サンゴの産卵の報告などジオサイトの出来事などを紹介しています。



小中学校でのジオパーク学習

喜界町内の小学3年生以上の児童と中学生を対象に、島の成り立ち・自然・文化・産業を学ぶジオパーク学習を実施しています。小学校では郷土学習、中学校では探究学習にジオパーク学習を取り入れています。



喜界島のジオを知る体験教室

喜界町の公民館講座で、一般向けにジオパーク学習を提供する「喜界島のジオを知る体験教室」を開催。島民の方々が島の成り立ちや自然、サンゴ礁文化に関する知識を学び、実際に体験する講座です。これまでに「サンゴ礁生態系をスノーケルで泳いで学ぶ」「日本一の生産量を誇るゴマの収穫を体験して喜界島の土と農業を学ぶ」「サンゴの石垣の修復体験を通じて喜界島のサンゴ礁文化を学ぶ」など、知識と体験を通じて喜界島ジオパークを深く楽しく学んでいます。



サンゴの石垣修復体験



ゴマの収穫体験

ジオパクパク給食

喜界島の大地の恵みを、食を通じて学ぶ「喜界島ジオパクパク給食」を島内の小中学校で実施しています。島で採れる野菜や島の料理が提供されるときに、食材を紹介するフライヤーを配布したり、クイズを出題したりして、美味しく楽しみながら喜界島の大地の恵みを学んでいます。



島産まれの和牛をジオパクパク給食で生徒と味わう喜界町長

防災訓練における防災講話

喜界島ジオパーク(構想)では、年に1度、島内の集落において持ち回りで開催される防災訓練を、防災に対する意識向上の場と位置付けて、消防・警察からの講話とともに、対象集落に係る災害について解説するジオパーク防災講話を2022年より開始しました。



目指せ！日本ジオパーク認定 第10回記念 東経130度 喜界島マラソン

喜界町では、毎年マラソン大会を開催しています。2024年に開催した10回目の記念大会は、大会名の前に「目指せ！日本ジオパーク認定」と名付け、島内外の参加者に喜界島ジオパークをアピールしました。マラソンコースでは喜界高校に通う離島留学生が、17個所の給水ポイントで、島にまつわるジオパーククイズを出題しました。



ジオパーク交流

喜界島ジオパーク(構想)では、日本ジオパークネットワークの一員として、他のジオパークとの連携強化を図っています。これまでに、ジオパーク認定に向けて3か所のジオパークに視察へ赴きました。さらに、2024年2月には、鹿児島県内の3つのジオパークを訪問し、ジオパークの運営の方法を学ぶとともに、相互連携について協議しました。今後は、県内のジオパーク同士が協力して、お互いの活動を盛り上げていきます！



懸垂幕の設置



喜界町役場庁舎に「目指せ日本ジオパーク認定！」の懸垂幕を掲示しました。

今後の展望

喜界町は、世界的な隆起速度を誇る島の成り立ちやサンゴ礁文化、島をとりまくサンゴ礁生態系など、独自性の強い地域資源があり、ジオパークの取組みに適している地域であると考えられます。ジオパークの認定に歩みだした現在は、喜界島内におけるジオパークのアイデンティティの確立が重要であり、その確立を意識した活動を進めています。さらに、今後喜界島では、日本ジオパークの認定に向けた運営体制の構築、島民の方々と共に様々な取組と活動の推進、ジオパーク同士の連携を図り、喜界島の地域課題の解決、そして地域振興に資する喜界島ジオパークの実現を目指してまいります。